太陽光発電について

柴崎　重雄（しばさき　しげお）

問　世界規模で地球温暖化による異常気象が著しい。現在、石油等の化石燃料にかわる新しいエネルギー源として太陽光発電への期待が高まっている。地球環境に優しいクリーンエネルギー推奨のための深谷市の補助制度、発電状況を聞きたい。

答　深谷市は本年度より余剰電力買取制度の創設など諸般の事情を考慮した結果、1キロワット当たり3万円、上限12万円の補助金を定めた。また、設置後の報告によると、太陽光パネル1キロワット当たり年間1170キロワットの発電量があり、うち750キロワットを売電している。これを金額で換算すると、太陽光による発電を自宅使用量と売電量の合計で、パネル1キロワット当たり年間約4万4千円の節約となる。

口蹄疫について

問　今年4月より宮崎県で家畜伝染病の口蹄疫（こうていえき）が広がっている。感染拡大する前に家畜伝染予防法による深谷市の防疫対策を聞きたい。

答　市民の不安・疑問を解消し、風評被害防止のため、「口蹄疫に関する問い合わせ窓口」を設置した。さらに市内114戸の畜産農家に炭酸ナトリウム剤を消毒液剤として配付した。また、関係諸機関との情報交換の場として深谷市口蹄疫連絡会を設置し意見交換・早期予防対策の実施を図っている。本市では今後とも畜産業の振興発展のため、引き続き防疫対策に取り組み、市民の安全安心確保に万全を期したい。

生活保護費不正受給事件における管理職の昇任は

今村　三治（いまむら　さんじ）

問　報復人事をやらないところは小島市長のいいところ。生活保護費不正受給事件における管理職の昇任については、選考がよくても一年か二年遅らせれば、他の職員も納得したのでは。このような人事は公正公平なのか疑問である。まじめにやっている職員がかわいそうである。今後もふまじめな職員をストレートに昇任させるのか。

答　かかわった職員については停職・減給などの懲戒処分を行って制裁を受けている。他の職員同様に選考基準に基づき昇任させた。

問　通学路の安全と防犯対策だが、除草と歩道の拡張及びパトロールの強化を、毎日のことなのでこまめに気を配り早めに対応できないか。

答　地域に協力してもらい、引き続き道路環境整備に努める。

農産物のPRのためのイベントの開催計画はあるか

馬場　茂（ばば　しげる）

問　「全国ネギサミット」を開催し、深谷ネギのPRと、さらなる産地の発展を図るべきではないか。

答　総合的にPRを行える方法を研究していく中で、農業者をはじめ農業団体、商工業者との連携、さらには市民も巻き込んだ事業展開となるよう、あわせて、話題づくりとなるイベントの開催を検討していきたいと考えている。

問　学校給食に米粉使用を増やせないか。

答　米粉を使用した食材は、ここ数年増加しているが、パンを例にとっても、小麦粉だけのパンが50グラムで39・15円に比べ、米粉を使ったパンは50グラムで59・93円と割高で、日常的に提供するまでには至っていない。今のところ学校給食では、米粉の使用を拡大していく計画はないが、米の消費拡大は国の重要な課題ととらえて、学校給食に米を使用することについて、今後とも研究を深めていきたい。

城址公園の設備改善の考えはあるか

問　「花フェスタ」等のイベントで利用する場合、食器などの洗い場やトイレの数が少ないが、改善策はあるか。

答　市内の同規模の公園と比べても十分な整備内容となっている。イベント等で集客が想定される場合は、主催者側で、適宜臨時の施設を準備したり、説明会などを開き、注意事項を周知しているので、新たに給排水設備とトイレ等の増設は考えていない。

城址公園

子育て支援の充実を！

小川　真一郎（おがわ　しんいちろう）

問　乳幼児健康診査について、深谷市は4カ月・1歳6カ月・3歳の計3回の健診を実施している。しかし、県内でも4回以上健診を実施する自治体は多数ある。将来を担う子供たちのため、子育てに奮戦する若い世代のために、健診回数を増やし、きめ細やかな子育て支援・サポートができないものか。

答　3回の健診のほか、年間48回の乳幼児相談、ハートフル広場として年6回同様の計測・相談を実施している。幅広い年齢の子供や、保護者を対象とした現在の体制はより柔軟な対応ができている。また、電話相談、面接相談、家庭訪問は随時行っており、子育てについて、悩みや心配を持つ保護者の相談窓口も確保されていると考えている。

問　働きながら子育てをする保護者のため、土・日・祝日の健診はできないものか。

答　健診は医師の立会いのもと行われているため、平日実施しており、土・日・祝日の対応は難しい。

くるリンのダイヤ改正・デマンド方式導入後の現況は

問　4月より、各シャトル便が1便増便され1日4往復となり、また、岡部・川本・花園循環線は、定時運行から事前予約型のデマンド方式が導入された。新たな運行方式が開始され2カ月が経過したが、問題点・改善点はみえたのか。

答　現時点において、事前予約型路線の利用者が少ないことから、広報や公民館だよりなどで市民の皆様に周知していきたい。

川本公民館南、図書館及びお祭り広場隣の市有地の活用

永田　勝彦（ながた　かつひこ）

問　深谷花火の開催されるお祭り広場隣接の土地は残土がうずたかく堆積されている。そのため、隣接する公民館・図書館さらには川本総合支所等から見る景観や眺望が著しく損なわれている。現行の残土置き場等は取りやめ、市民の望む各種スポーツ・イベント等の催事場並びに駐車場としての利用は考えられるか。

答　引き続き川本地区における公共事業の残土用地として利用していきたい。

問　市民は公共施設の周囲に残土置き場は望まないが。

答　当面の間は資材置き場として利用を図る。将来は協議を持ちながら考えていく。

水遊び場の使用禁止解除を求める

問　もくせい館西側あずまやがある丸山のふもとの水遊び場は、医師神山博夫氏の浄財にて建てられた、すこぶる安全な施設である。即刻使用禁止解除はできないか。

答　水遊び場の再開は考えていない。

問　水遊び場の利用者からは「親子の触れ合いが深まった」「友達ができた」「楽しい思い出ができた」等々の声が届き、子供同士の切磋琢磨があったことがうかがえる。夏季休暇中こそ、太陽の下で友達同士伸び伸び交わることが大切と考える。一日も早く使用禁止を解除し、速やかなる再開とならないか。

答　プールの安全標準指針に照らし難しい。

〈議会あれこれ「一般質問ってなぁに?」…議案質疑とは別に議員が市の行政全般にわたり執行部側に対し自由に質問できるものです。6月議会では18人の議員が質問をしました。〉